

妊娠中の皆様、ご家族の皆様へ

新型コロナウイルス第7波の広がりをうけて

2022/07/31

新型コロナウイルスの第7波の広がりにより、妊娠している方あるいはそのご家族への感染もみられています。

日本におけるこの2年間の妊婦への影響がまとめ、次の点が報告されました。

- ①中等症Ⅱ以上は、全員がワクチン未接種者であった。
- ②第6波からは、妊婦の重症者の報告はない。中等症Ⅱは感染者の3%であった。
- ③新型コロナウイルス感染症による妊婦の死亡の報告はない。
- ④感染妊婦の分娩方法は、約60%が帝王切開となっている。

また世界からコロナウイルスに関して次のような報告があります。

- ⑤ワクチン接種者から産まれた赤ちゃんは、生後半年までのコロナウイルス感染での入院率が低い。
- ⑥母乳栄養は赤ちゃんのコロナウイルス感染の予防に効果がある。

このような点を含め、新型コロナウイルスに対するワクチンは妊婦そして出生児へも効果が認められていますので、今後も接種を受けられることを推奨いたします。

現在の第7波の主体であるオミクロン株「BA.5」においては、感染力は強いですが、重症化率は低いことが示唆されていますので、適切なコロナウイルスとの向き合い方が大事であろうと考えます。

その中で、臨月となり特に妊娠37週以降の妊婦の感染では、特別な対応を要し、注意が必要です。

陣痛の開始は予期できず、また妊婦とともに胎児あるいは新生児への対応を要します。

そのため県内においては、陽性と判明した段階で、高次医療機関(県立中部病院など)へ、緊急の紹介としております。分娩方法は現時点では、帝王切開が基本の対応となっております。

また同居のご主人やご家族が陽性となった場合は、妊婦さん本人は基本的に濃厚接触者ならびに感染疑いとして、感染の場合と同様の対応となる可能性があります。

新型コロナウイルスにおいては、世界の情報も日々更新されておりますので、県内における対応も今後変化する可能性があります。私たちも注視しております。

妊婦さん、そしてご家族も感染予防にどうかお気をつけください。

特に妊娠37週以降の妊婦さんはご家族とともに、十分な感染予防対策を取られますことをお願い申し上げます。

医療法人 工藤医院
院長 間瀬徳光